



地域活性化へ本格始動

オリエンタル群馬

オリエンタルコンサルタントの子会社、オリエンタル群馬(本社・前橋市、中埜智親社長)は、まちづくりと地域活性化に向け本格的な活動を始めた。本社開設を記念して、6日に前橋市の本社でまちづくりシンポジウム「これから

のまちづくりを考える―未来を地域とともに―を開いた。シンポジウムは、JR前橋駅の待合室など市内6カ所のモニターに配信したほか、まえばしCITYエフエムがラジオで生放送した。

山本龍前橋市長は、「ここから新しい「結び、結びあいが始まる。結びあいは中心市街地の新しい力だ。中心市街地は人々の交流の場所、新しい価値を生む。若者や買い物に来る人などが集える企画を練って、それを実行する力になってほしい」と、ビデオで同社に期待するメッセージを寄せた。大宮登高崎経済大教授がコーディネーターを務め、4人のパネリストが話題提供した。住友文彦アーツ前橋館長は、アートとまちづくりの関係について、「アーティ

本社開設、結びあいの力に

ストは人が見えないものを見ている。魅力あるものを見つけ出す突破力、肯定力がある。地域振興

とアートが結びついている」と述べた。大橋慶人前橋中心商店街協同組合副理事長は、同社が1階に入居した3階建てのビルは15年間空き店舗になっていたが、「2、3階は学生専用のシェアハウスとして11人が住める。現在、4人が決定・内定している。商店街は1年行事があるので、学生を積極的にまちに引き入れたい」と話した。これによって交流を図ることができ、お互いワイン・ワインの関係が築けるとも説明した。

同エフエムの岡正己プロデューサーは、「これを機に人と人のつながりを加速させたい」と述べた。中埜社長は、スマートフォンを使った地域活性化支援システムのポータルサイトなど同社の取り組みを紹介したほか、「人と人、活動と活動が連携することで相乗効果が生まれる。それを大きくして継続するには場、情報、ルールの緩和が必要で、これらを回すものが資金、仕組みだ」と強調した。大宮教授は、「点を線に結び、線を面にするということは古くから新しい問題だが、これを効果的にやっていくことが問われている。点が広がり化学変化を起こすことを何度も仕掛けながらやっていくことが大事だ」とまとめた。



心商店街協同組合副理事

宮登高崎経済大学地域政策学部教授、パネリストには、住友文彦アーツ前橋館長、大橋慶人前橋中心商店街協同組合副理事

写真。コーディネーターに大宮登高崎経済大学地域政策学部教授、パネリストには、住友文彦アーツ前橋館長、大橋慶人前橋中心商店街協同組合副理事

「本社」まちづくりシンポ開催

ビジョン、枠組みなど議論

オリエンタル群馬

オリエンタルコンサルタツツの子会社のオリエンタル群馬は、群馬県前橋市の中心市街地にあるシェアフラット・馬場川に本社を開設したことを記念し、6日に同所でまちづくりシンポジウム

長、岡正己（まえばし）CITTYエフエムプロデューサーを迎え、中埜智親（なかのちかお）オリエンタル群馬代表取締役もパネリストとして参加した。

同シンポジウムでは、冒頭、山本龍前橋市長からのビデオメッセージが流れ、続いて、前橋市のまちづくりの造詣が深いパネリストからの話題提供などが行われ、これからの前

橋市におけるまちづくりのビジョンや枠組みなどを議論した。この中で中埜オリエンタル群馬代表取締役は、人や情報などを上手く組み合わせる仕組みなどを基にして、「まちに新たな価値を創出したい」と述べた。

議論の模様は、JR前橋駅待合室など6か所のサテライト会場や、まえばしCITTYエフエムのラジオ放送等で同時配信された。

オリエンタル群馬は、本社開設およびシンポジウム開催を機会に、まちづくりをプロデュースする企業として、前橋市をはじめ県内の貴重な資源である「人」「物」「情報」活動を有機的に結び、まちづくり・地域づくりに貢献していく。